

令和 6 年度第3回 湘南大庭の未来を考える会議 議事録

日 時	2024年(令和6年)10月31日(木)午前 10 時から正午まで
場 所	湘南大庭市民センター 第1談話室
出 席 者	佐野会長他 14名(詳細は出席者一覧のとおり)

1 開会

會澤課長補佐による司会で開会し、佐野会長が議長として会議を進行した。

會澤課長 補佐	皆さんこんにちは。それでは定刻となりましたので、ただいまより令和 6 年度第3回湘南大庭の未来を考える会議を開催していきたいと思います。よろしくお願いいたします。 まず資料を確認させていただきます。お手元の資料になりますが、過不足等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。 続きまして藤沢市情報公開条例第 3 条の規定によりまして、会議の方は原則公開としておりますが、会長いかがでしょうか。
佐野会長	はい。よろしくお願いいたします。
會澤課長 補佐	それでは原則公開になっておりますので公開にしたいと思います。
佐野会長	本日傍聴者はいらっしゃいますか。
會澤課長 補佐	はい。本日の傍聴者はいらっしゃいません。 それではここからの進行につきましては佐野会長にお願いしたいと思います。 よろしくお願いいたします。
佐野会長	それではこれから議事に入りたいと思います。本日でこの会議は最後の開催になりますので、笑顔で終わりたいと思います。 それでは次第の 2 指針の完成イメージについて事務局より説明をお願いいたします。

2 指針の完成イメージについて

石丸上級主査より、資料1-1、1-2 を用いて指針の完成イメージについて説明した。

石丸上級 主査	この議題では資料 1-1 と資料 1-2 を使用してご説明します。 まず資料 1-1 は指針の一部を抜粋したものになります。
------------	---

ページをめくりながら全体をご覧くださいますと、章ごとに色を変えて構成をしているのがお分かりいただけると思います。

また、ページ左上に章のタイトルがございまして、その下に章のページ範囲が記されています。

文章の見出しは章のテーマカラーと同じ色で帯を作り、表示するデザインになっています。

またページの左右に、インデックスがございまして、今何章をみているかということがわかるように各ページとなっております。

続けて、最後のページまでめくっていただきますと、資料編になります。

資料編は、統一したデザインになっています。テーマカラーはグレーですが、各ページの写真などはカラーで印刷していきます。

続いて資料 1-2 をご覧ください。

こちら前回もお示した概要版になりますけれども、まず表紙になっていきますイラストの部分については、前回皆様からご議論いただいて修正点等をお伺いしました。その内容を反映しております。

また、一度修正した案を地域活性化協議会の皆さまに確認いただきまして、その時点でご連絡いただいた修正点も反映しております。

今のイラストは少し線が優しい感じのタッチになっていますけれども、ラフスケッチということで、確定しましたら人の表情ですとか建物の輪郭とかもう少し精度の高いものになっていきます。

これまでの内容を踏まえまして、大きく修正をしたところでいくと、右下の部分に大庭城址を表現したスペースを設けているところですか、中央にけやき通りをイメージした道路を描いてそこに連結バスが走っているイラストに変更しています。

また、各所にお祭りとかイベントですとか、マルシェみたいなものやっていて同時多発的に面白いイベントがやってる、楽しいことをやっている、ということを表現しています。

あとは、バスや建物の中にも人を描いて、楽しんで暮らしているという様子が伝わるようにということで表現を変えています。

また、細かいところと言いますと、右側の川沿いにカワセミがいる様子を表現していたりとか、そういった変更を加えています。

大通り沿いのケヤキについては、なるべくケヤキをリアルに表現を、というご要望に沿うよう、少し色を変えたりとか、背丈を大きくしたりとい

	う工夫をデザイナーにしてもらいました。 あまり背丈を大きくしてしまうと他の絵が隠れてしまうっていうこともあって、できる限りの範囲でケヤキの樹形を意識したデザインに変えてもらっています。 裏のページをご覧ください。 前回から変更した点は、三つの将来像の部分です。 共生・生彩・発信というところで、前は、これに加えて左側に目指すべき将来像という文字が同じような形で書いてありましたけれども、わかりづらいこともあって、3つの共生・生彩・発信とだけ記載をしました。 その上に目指すべき将来像 1、2、3 という形で記載を変更しつつ、3色で表現をしています。 共生が緑、生彩がオレンジ、発信がピンクという形で表現をしています。 右上、地域活性化のためにパートナーシップを進めていくということを強調していこうというご意見を踏まえて、3者が連携して取り組んでいるということがわかるようにトライアングルで表現をしているというところが変更点になります。 あとは右下の部分に、今まだ二次元コードを作れる状況ではないですが、これからの製本ができてデザインが完了しましたら、そちらを市のホームページにアップをしまして、その二次元コードをこの右下に表示していくという予定で考えております。 その他には、基本理念の右側に湘南大庭地区を示した位置図を新たに加えました。 指針の完成イメージにつきましては以上になります。
佐野会長	わかりました。 指針と概要版のデザインについて説明いただきました。 皆さんからこれについてのご意見とか、感想ありましたらお願いいたします。 よろしいですか。
中村委員	前回のイラストからだいぶ変更されて、ライフタウンのイメージに近づいたと思います。
神木委員	この絵を見て、現在から未来へ、というイメージが沸く、非常に良いものだと思います。
道上委員	まちのみんなの思いが表現されているような、とても良いデザインだと

	思います。 指針の方も、硬い内容をやわらかいデザインにして工夫してくれているので、読みやすいのではないかと思います。
佐野会長	そのほかご意見がなければ次の議題に移ります。 それでは次の次第の 3 藤沢市長への提言及び完成報告、それとこれからの周知活動について事務局より説明をお願いいたします。

3 藤沢市長への提言及び完成報告・周知活動について

石丸上級主査より、指針(案)の本編について資料 2 を用いて説明した。

石丸上級主査	こちらの議題では、資料 2 を使用します。 当初より、藤沢市長へ提言するということで今年度進めておりましたけれども、予定通りこちらの指針が完成するという見込みが立ってまいりましたので、鈴木市長への提言に向けて具体的に調整を進めさせていただければと思っております。 その中でまず時期なんですけれども、この指針の製本作業は、来年 1 月中旬ぐらいに完了する予定で進めておりますので、製本が済みましたら、鈴木市長に提言書としてお渡しします。 時期は 2025 年の 1 月下旬を想定しております。 提言のスケジュールですけれども、約 30 分間、市長に時間をいただきまして、場所は藤沢市役所の会議室を想定しています。 出席者は、湘南大庭の未来を考える会議として、会長と副会長、さらに地域活性化協議会の委員の方からも 2 名ご出席をいただいて、未来を考える会議全体としては合計 4 名で臨んでいただければと事務局としては考えております。 また、同席させていただく事務局としては、住宅政策課長と住宅政策課の課長補佐の會澤、大塚市民センター長、杉渕アドバイザーにご同席いただいております。 具体的な流れですけれども、30 分の中で、集約して市長にお伝えしていければと思いますが、まず佐野会長からご挨拶をいただき、その後、会長から提言の趣旨を説明していただくことを考えております。 ただ、指針の内容を全て説明するというのは、時間的にも難しいところがありますので、あらかじめ事務局からの概要については市長に説明させていただきます。佐野会長の趣旨説明の後、鈴木市長から指針の提言を踏まえて、ご挨拶をいただきます。その後ご用意した時間を使いまして出席者の皆さんと鈴木市長と懇談をしていただくという段
--------	--

	取りで考えております。 最後に、記念に撮影をさせていただいて、藤沢市長に提言したということが記録としても残るようにと考えております。 以上が提言に関する説明になります。 続いて、完成報告・周知活動について事務局の案を説明させていただきます。 まず完成報告ですけれども、地域の団体に対して、指針ができましたということでお話をしていくことが望ましいかなというふうに考えております。そちらについては来年 2025 年の 2 月から 3 月頃この間に、報告会という形で開催できたらよいかと考えております。 どのような団体に対してご報告をしていくかというところですが、今、大きく2つ案があります。 一つは仮称と書いてありますけれども、郷土づくり推進会議と地域活性化協議会の全体集会が実施されるということで、この中で指針のご報告をしていくもの、さらに地域の 6 自治会等が集まって調整されます新生会議、こちらについてもご報告をしていったらどうかというものです。 会場は市民センターとしまして、趣旨としては参加者の皆さんに指針の内容をお話すると説明をして、ご理解をいただくとともに今後のまちづくりへの協力を求めるような内容にすることがよいかもしれません。主催は湘南大庭の未来を考える会議ということで進めていくと良いかと考えております。 続いて、周知活動ですけれども、周知活動については、1 年間とかそういう時限的なものではなくて、長い時間をかけていろいろと皆さんに周知を図っていくものになると想定しています。 基本的なところとしては、センターとか市民図書館、そういったところに配架をして人目につくような形で常に置いておくという工夫が必要かなと思います。 また、湘南ライフタウンで、開催される各種イベントにおいても、例えば会場に置いておいて手に取っていただくような仕掛けを作るとか、そういったことで草の根的に、周知を図っていくというところも併せて考えてはどうかと思っております。 この議題の説明については以上になります。 よろしくお願いします。
佐野会長	市長への提言の方法、湘南ライフタウンの住民への完成報告をどのように実施するか、それから周知活動をどうやっていくか、という議題で

	した。 完成報告については、どこの団体向けにやるかということも皆様に相談したいということです。 また、周知活動については、今回のメンバーを中心として、できれば住民の30代40代の方々を巻き込んだ形でアピールしていけるとよいと思います。 いかがでしょうか。
會澤課長 補佐	今こちらの資料の中に2つの会議体がかかれていますが、ご存知ない委員もいらっしゃるかと思いますので、市民センターから補足説明させていただきます。
入澤主幹	郷土づくり推進会議と地域活性化協議会は別の組織として存在しておりますが、3月末頃に一緒に全体集会のようなものが開催できればと考えております。 それから下の新生会議というものは、今の自治会連合会の方が主催しておりまして、地域団体、例えば社協ですとか、交通ですとか、生活環境だとか防災といった方々の会長が集まる会議があるんですけども、この機会を活かして報告していくことも有効と考えまして、この2つの会議体を提案させていただきました。
佐野会長	この2つの会議体に報告していくということによろしいでしょうか。 いずれも大庭市民センターや住宅政策課のバックアップを受けながら地域活性化協議会の皆さまが主体的に進めることになると思いますけれども、その点についてはどうでしょうか。
道上委員	質問です。 まず、対象として仮称郷土づくり推進会議・地域活性化協議会全体集会とありますが、郷土づくり推進会議の方々は日々まちづくりを進めているので、まず、この方々に指針の内容をご理解いただく必要があるかと思しますので、これはぜひ行いたいところです。 ただ、全体集会っていうのは、推進会議も自分たちの1年の取り組みを市民の方にお伝えするものになっているので、参加する方はこの中に地域住民、一般の方々っていうものが、もれなく入ってくるっていうことによろしいでしょうか。 新生会議の方は、地域のキーパーソンというか、指針に載っている防災とか弱者を助ける社協とか子供関係とかいろんなキーパーソンの方だけが参加する会議ということですか。
入澤主幹	そういう形になります。 郷土づくり推進会議は大体年度の末に報告をしているんですけど

	も、地域活性化協議会は今までやったことがないと思いますので、初めての試みになるんじゃないかと思います。
道上委員	市民の方に聞いていただく、このタイミングでの報告というのは全体集会しかないと思います。 周知活動に関しても、この全体集会にぜひ参加してくださいという形で周知ということになりますか。
石丸上級主査	全体集会への参加を促す周知活動も当然必要だと思います。 いろんな方が参加できる報告会になるとと思いますので、なるべく多くの方にお越しいただくための周知活動は実施すべきです。 ここに書かせていただいた周知活動というのは、指針の存在を日常的知ってもらうための活動という意味で考えておりまして、もしかしたら他にもご提案があるかもしれませんが、いったん今考えられることを書かせていただきました。
中村委員	市長の提言についてはいいと思うんですけどね。問題は、この住民への完成報告および周知活動に関することで、周知活動は SNS とかいろいろセンターを中心にやってますから、それなりの効果でいると思うんですけども、前回のライフタウン活性化指針の意見募集では、62 名の方からご意見をいただいておりますけども、こういう方々にぜひおいでいただきたい。 ワークショップが開催されれば参加したいという返事が出てますのでね。 それと郷土づくり推進会議は 13 名います。活性化協議会についてはこの記載の通り 8 名ぐらいですか。 合わせて 21 名、新生会議が地域 6 団体の会長ということだったんですけども、発足させた時点では会長副会長、三役含めて、話し合いの場を設けるということでした。最近は会長しか集まっていないようなんですけども。趣旨は、地域活動はすごく希薄になっている中で、担い手不足であったり役員不足であったり、お互いの団体の交流を図ろうと、何とかしよう、ということで新しく生まれ変わろうということで発足したものなんです。 場所はどこでやるんですか。これは会議室でやるんですか。
石丸上級主査	会場はまだ決定していません。
中村委員	このメンバーでいいと思うんですけども、会長さんに限らずできれば現状を見ていただければわかると思うんですけども、かなり高齢者の方がいて、ちょうど世代交代の時期になってますので、若い方も含め

	て参加していただけるような、広げていただくような形の方がいいと思います。 でないと地域に浸透していかないというか、せっかく作った指針を地域の方が理解して、地域の方が動いて、地域の方が広げていただく、そして参加していただく、子供たちがそれに郷土愛を持つというようなことでやればいいのかと思っていますので、よろしくお願いします。
佐野会長	ありがとうございました。 特に住民への周知というのが非常に重要です。 去年の講演会のときも、かなり来るかと思ったんですが、参加者は少なかったですね。 行政が作った計画ということになると、関心を示さない人も多く出てきますが、これは、住民の声で出来上がっている指針ですから、そういう意味でも住民が周知活動を主体的に実施していくということが重要だと思います。
實方副会長	完成報告会が本当に地域の活動をメインで担っている方々が参加していただけるということで、ものすごくいいなと思っています。加えて中村さんから意見募集に出してくれた人の参加を、というお話もありましたけれども、学校からもいただいてたと思うので、そちらにも周知される予定でしょうか？
石丸上級主査	完成報告会を実施するというお知らせを学校にするかどうかということでしょうか？
實方副会長	そうです。例えば概要版を学校に何冊か寄贈するとか、完成報告会の開催についてお知らせするとか、学生さん側の人材発掘にもつながると思うので、トライしていただければと思います。
會澤課長補佐	今の学校に対してのアプローチに関するご意見については、完成をしたタイミングで、全校生徒には難しいかもしれませんが、完成報告もかねて数部お渡しできればと思います。
道上委員	最終的な確認がまだ活性化協議会でできていなかったんですけども、9月27日にこの協議会を行って、そのときにはアンケートの内容に、お子さんたちが答えてくださったものを盛り込みたいという思いがあることを確認しました。 最近、夏が暑くて外で遊べない。それがとてもつらい。遊び場所を屋内に作ってほしいとか、そういうご意見が多数見受けられましたので、それを盛り込む形でお願いしているところです。 なので、学校で説明をするとしたら、みんなの意見をここに入れさせてもらったよ、ということをお子たちに届けたいです。

	気づいてもらうっていうことが大事じゃないかなと思います。
會澤課長 補佐	今のお話の中で、少し修正が加えたいというお話ではありますが、製本していくスケジュールとの兼ね合いもありますので、間に合わせるような形でご意見いただければ、調整はできると思いますので、よろしくお願いいたします。
佐野会長	子供たちへの報告は可能でしたら実施してもらいたいですね。 修正のほうは時間に間に合うようにお願いします。
道上委員	商業施設の活性化につながって、子供たちの夏の快適な遊び場の確保にもなるとよいと考えたので、その点をコラムにも盛り込みたいと考えています。よろしくお願いします。
佐野会長	調整していただいて、できるだけ取り上げるようにしていきたいと思います。 よろしくお願いいたします。 他にございますか。
水上委員	小学生に対するフィードバックについて、道上さんがおっしゃった通り。全く同感です。 また、中村さんの、62名の意見をくださった方においでいただきたいという思いはもちろんですが、思い起こしてみると、一番初めに市長から委嘱状をいただいたときからいろいろと始まっていると思うんですが、ワークショップやりましょうとか、セミナーやりましょうとか、何らかの形で会議への協力、理解を求めてきたアクションが何回かあったと思うんです。 呼びかけて、参加してくれた方々には、指針がおかげさまで完成したというところまでちゃんと示しておかないと筋としておかしくなってしまうと思っています。 それが個別に報告できるとよいですが、実際には難しいとは思うので、ホームページなのか、市民センターでの継続的な周知なのかわかりませんが、意見もらえばなしというのが一番よろしくないと思いました。 それが一点と、あと、指針を市長に提言して、その後、1年、2年と経過して、その成果がどうだったのかモニタリングしていかないと、指針を作っただけで終わってしまいます。このあたりが気になったので一言加えさせていただきます。
佐野会長	水上委員から2つ意見いただきました。 意見された方に対しても、指針が完成したことをきちんと報告していくことが必要ですね。我々の住民の立場として報告していくことが必要

	だと思っています。 それと2年後3年後、この指針を市がどのように取り扱っているかというのも非常に重要で、特に都市計画関係の計画などは策定時に関心を持っていただきたいところです。 また、地域活性化協議会の皆さんもそのあたりのチェックをして、政策としてどのように進捗しているかを確認できる体制にしておくことも必要かと思います。 水上さん、貴重なご意見ありがとうございました。
會澤課長 補佐	ご意見ありがとうございます。 まず1点目ですが、これまで意見を寄せていただいた方やワークショップなどへの参加者に対して、個別に報告していくことは、個人情報収集していないので難しいところがあります。なので、全体集会の報告会などの機会をとらえて完成したことや内容の趣旨をお伝えできるように周知活動を展開していくことがよいと思います。 もう1点、今後のモニタリングというところになりますが、まず行政側としては、受け止めた後にどこまで進められたのか、何が進んだのか、というところの確認は必要と考えています。ただ、なかなかまちづくりの成果というものは短期間で、例えば1年というスパンで目に見える成果を出すということは難しいところがありますので、相当の期間を設けながら、見直しや整理をしていくことが適当だと思われます。 また、行政の施策の進捗だけではなく、住民のみなさんの取組が進むことも重要で、その点に関して、行政の支援が必要な場面が生じたら、都度可能な協働をしていくことも必要ですし、ときには民間事業者の協力が求められる時もあると思いますので、3者が歩調を合わせながら進められたらと考えています。
道上委員	確かに集会に参加した方の名簿はありませんけれど、住民の方なので、私たちが声をかけながら、概要版を多めにいただいて、ひとりずつ伝えていくってことが、まちづくりへの参加者を増やすことにつながるような気がします。可能でしたら、印刷物の部数に配慮してもらえたら、と思います。
神木委員	ちょっと余談になりますけど、この話をしておいた方がいいかなと思ってちょっと話すんですけども、先日、活性化協議会のふるさとまつりで、今までパリに住んでおられて、こっちに戻ってこられた方がいました。30代初めぐらいのご夫婦で、幼稚園通うお子様がいらっしゃってました。それで良いお店の情報などをいろいろと教えてんですが、そういう情報を求めているとおっしゃってました。

	そういうふるさとまつりの情報なども活かしながら周知活動ができるといいのではないかと思います。
中村委員	ライフタウンにも一生懸命まちづくりを手伝ったりしている若者がいますが、そういう人に呼びかけても昼は仕事があってなかなか参加できないというようなこともあるんで、時間的なことも考慮していただくと助かります。 農家の方は少なくはなってますけども、農業後継者はちゃんと引き継いでやってる 40 代後半 50 代の方が多いと思うんですけども、そういう方々にも声をかけるというのもよいかもしれない。 それから、湘南大庭地区にもいろいろな市役所の部署が関わっていて、関係する計画も多くあります。 今回、市長に提言して、全庁的に知れ渡るわけですから、その辺の横断的な役割を住宅政策とか企画政策の部署が担ってほしいですね。
實方副会長	今の周知とモニタリングについてなんですけれども、モニタリングを行っていく対象は自治会であったりすると思うんですが、地域団体は輪番で人が変わっていくので、モニタリングの場を例えば新生会議であったり郷土づくり推進会議の方々と一緒にやっていくということは、新しく地域の役員に就かれた方に周知していく良い機会にもなると思うので、そういう形でモニタリングをされていかれるといいかなと思います。 ただ、地域の皆さんにとってはモニタリングってすごく大きな負担になると思うので、例えば概要版に書いてある内容は、地域型包括ケアの内容とも合致するところがあることからすると、行政の方からモニタリングの材料を示して市民にみてもらいながら、振り返りをしていくような仕組みがあってもよいのではないかと思います。 行政の行うモニタリングとは少し違う形になると思うんですけども、この概要版を徹底的に使いこなしていただけるといいかなと思います。 詳細が知りたくなったときに、本編を確認するような使い方もよいかもしれません。
會澤課長補佐	ご意見ありがとうございます。 道上委員からお話がありました委員のお知り合いの方への配布などは、まさに石丸が申したような草の根運動につながりますし、こういった視点が重要だと感じています。 ただ、現時点で用意する予定の概要版の部数に限りがあり、みなさまにお配りできるかという、難しい面があるかと思います。

	この点は、紙や印刷の質は若干落ちるかもしれませんが、別に必要部数を市役所で用意することも検討させていただきます。 それと、ふるさとまつりでの周知などについても今後引き続き、地域の方々で行われると思われませんが、そういったことで地域の方が集まるタイミングを活用していければと考えております。 また、モニタリングの件ですが、具体的計画や指標がない中でのモニタリングとなりますと、評価が難しくなる場合がありますが、一定期間を経過した後、とりまとめた資料やデータを提供させていただくことも検討できるかと思います。 この点は、市民センターとも調整していきます。
佐野会長	指針完成後の発展的な展開が見えてきましたので非常にいいことだと思います。 今回の指針が、市役所が主導しているというのではなくて、住民が主体でつくりあげてきたものなので、行政から強く発信というよりも、活性化協議会のメンバーのみなさんが中心になって、小さくてもよいので何かの集まりで周知活動をしていきながら、地域との連携を深めていくことがよいと思います。 それでは、次の議題に進んでよろしいでしょうか？ それでは次第 4、まちづくりトークイベントについて事務局より説明をお願いいたします。

4 まちづくりトークイベントについて

石丸上級主査より、まちづくりトークイベントについて資料 3 を用いて説明した。

石丸上級主査	資料 3 をご覧ください。 裏表のチラシをご用意しております。 まちづくりの機運を高めるために、昨年度も大磯の原さんにお越しいただいて、お話をいただきました。そういった当事者の方からお話をいただき、どのような考え方、マインドで進められたかというところを直接お聞きするというのは非常に効果のあることだということは、昨年度の実績からも明らかです。 そこで、今年度も、愛知県岡崎市からお 2 人お招きをしてお話をいただきたいと思います。 昨年度の原さんがお 1 人でいろいろ活動されるスーパーマンであったのに対して、今回はまさに一般の市民の方、それから一般の市の職員、そういった人たちが主人公になってまちづくりを進めていると
--------	--

	というのは非常に面白いということでお呼びすることを考えました。 また今回 QURUWA 戦略という愛知県岡崎市の中心市街地で進めている行政の政策、計画に対して、市民、事業者、行政が連携して取り組んでいるという、まさに我々が進めているパートナーシップの関係でまちづくりを進めているというところが、先進事例として大変参考になると考えました。 ゲストスピーカーのところをご覧くださいますと左側の柏木さんという方、右側の中川さんという方がそれぞれ 40 代前半ということで、若手とまちづくりの分野からは言えるのではないかと思います。 そういった中で左側の柏木さんについては、個人事業主でありつつ QURUWA 戦略の中で 7 町広域連合会という自治会の連合会のような組織がございまして、こちらには自治会長ですとかそういった方がいらっしゃって、年齢層は高めということなんですけれども、実は下部組織として、次世代の会というものがございます。 そちらの副代表を務めてらっしゃる方なんですけども、実質この岡崎市では次世代の会というものが主体となって町を動かしているそうです。それは、例えばボランティア活動とかに限らず、事業活動を開始したい人とかそういったところも含めて次世代の会が組織ぐるみでサポートして実現をしていくというところが非常に面白い取り組みであるかなと思いました。 また、右側の中川さんという方は、この QURUWA 戦略に 10 年以上関わってらっしゃる方で、ひたすら市民の活動をサポートしてきたという立場の方、まさにこの市民が、あの活動をどう実現するかということに重きを置き、役所内の横串を指す役割をずっと担ってきたというところで、市民からの信頼も厚く、また、庁内からの信頼も厚い重要な役回りを担当しています。 それぞれのお立場のお話を聞けるというのは、これはまた行政の職員も参考になりますし、市民の皆さんにも参考になるかなと思ってこの 2 人を呼ぶことにしております。 日程と会場ですけれども、12 月 7 日土曜日午後 2 時から 4 時に、湘南大庭市民センターの小ホールを使用して開催する予定です。 申し込みについては不要で、どなたにでも参加いただけるということで、もちろん地域外の方でも出席可能となっております。 また、今回土曜日に開催するんですけれども狙いとしてはやはり若手の方、例えば 30 代 40 代ぐらいの方でもできれば参加していただきたい。
--	--

	ただ、子育てがあつてなかなか難しいという方もいらっしゃると思いますので、若干ではありますけれども、託児枠を用意しております。 1歳以上の方であれば、予約の上で2時間お預かりをして、その間気兼ねなくこちらのイベントに参加していただくということで今考えております。 こちらのイベントの周知についてなんですけれども、既にホームページでは掲載しておりますが、11月25日号の広報ふじさわと併せて地域回覧していきます。 また、11月25日号の広報ふじさわにも掲載する予定でおります。 皆様におかれましてもぜひこのイベントについてお知り合いの皆様にご周知いただいて、1人でも多くの方にご出席いただけるといいなと思っておりますのでご協力よろしくお願いいたします。
佐野会長	ありがとうございました。 岡崎市から2人を呼んでイベントをやるということです。 ライフタウンの中で、まちづくり活動、地域活動を考えている人が来てくれるっていうようなことが一番大事だと思いますので、そういうような投げかけができるとういですね。 岡崎は城下町で昔ながらの商店が多いですね。その2代目3代目の方々が活躍している。だから、ライフタウンとは違うと言われそうですが、そうではなくて、若手がどのようにまちづくりに関わっているかという点が重要だと思います。 おそらく何らかのヒントを得られる機会になるんじゃないかと思しますので、その効果を期待したいですね。
中村委員	大庭地区では、最近、まちづくりトークとかそういうイベントが目白押しなんですよ。 この街でよく頑張ってる会社の社員の方々もたくさんいます。それぞれ個性ある活動などをしていますから、そういう人たちに来てもらえるとよいです。
神木委員	今、中村さんがおっしゃったようなことは僕も同じように感じてるんです。やはり、若い方に、可能なら西高校の高校生をターゲットにして来ていただけるとよいですね。 高齢者もちろん大事ですが、これからを担う若者を中心に考えて進めていけるといいですね。 非常に良い意見を持っている若者がたくさんいますから、そういう人に周知していきたいと思います。
道上委員	特にこの柏木さんの次世代の会というのが秀逸だなと思っていま

	す。 そこで年代がちゃんとまとまってくるっていうこの名前の付け方が面白いなと思って、行政と市民とのその連携がどのように行われているのか、とても参考になりそうな気がします。
水上委員	素敵な企画をありがとうございます。 岡崎の事例って、いわゆる公民連携の分野でも最新最先端の事例なんです。 誤解を恐れず言うならば、今のライフタウンの一步先を行っている事例です。 もしかしたら、この 2 人の話を聞きたくてライフタウンに来てみようという人がいるくらいのコンテンツなので、何かそういう話し方をしていただいてもいいのかなという気がしました。 さきほど道上さんがおっしゃった通り、次世代の会を自分事として捉えてくれる人もいると思うので、どうやってそういう人たちに訴求するかという話を考えておきたいですね。 あとは公民連携の事例なので、市役所の職員の方にも聞いてもらいたいと思います。 可能なら他の部署の方をお誘いいただいてもよいではないかと思います。
佐野会長	公民でまちづくりに取組んでいるという点では、水上さんのおっしゃる通り、市役所の職員の方にもぜひ来てほしいですね。
會澤課長 補佐	ご意見ありがとうございます。 今回のイベントについては、外の好事例の話を聞いて、またこれまでと違う視点で学びを深めていけたらという考えから企画しています。 事務局でも機会を捉えて周知していきますが、配布用の資料を用意していますので、地域の方においても先ほどと同じく草の根運動的に広げていただければと思います。 また、市役所の庁内については、すでに全職員に周知しておりまして、参加を期待しているところです。

5 その他・閉会

佐野会長による司会で、各委員から感想を述べ、会長から閉会のあいさつをした。

佐野会長 それでは次第の 5 番目、その他ですが、委員・事務局から発言あり

	ますでしょうか？ その他の議題がないようですね。 では、今回が最終回の会議になりますので、この場で各委員から一言ずつ、この指針について、また、地域に対する思いとか今後のお考え等を一言ずついただきたいと思います。
實方副会長	ありがとうございました。 今回こういう目に見えて素敵なデザインで、この指針がまとまっている姿を見て、本当によかったなと思っております。 事務局の市の皆さん市民センターの方々のご協力もあって、そして何よりも活性化協議会の皆さんもメールでも何十回と多分やり取りをしながら、中身を検討されてきた成果が形になったと思いますので、一緒に市長に提言に伺えるということですのでごく嬉しく思っております。 この指針をこの地域の皆さんが主体的に考えて作られたということは、何よりもこのライフタウンを整備したときは、行政主導で整備された街だとは思いますが、それを何十年と暮らしてきた地域の皆さんが、これからも愛着のある湘南大庭地区で住み続けていくんだぞ、と、そのために必要なことをまとめたんだぞ、ということで、もしかしたら、このまま廃れていっちゃうのかしらって心配だったり、少し諦めの気持ちを持ってる方もいらっしゃるかもしれませんが、この指針が出たということで、この町はこれからも素敵であり続けたいと思ってるんだ、こうやって頑張ろうとみんなで一緒にやろうと声を上げてくれてる人たちがいるんだ、ということは、すごく地域の皆様にとっても力をつけてくれるものになると思います。また、これは外にも発信されていくことで、このライフタウンは素敵な未来を持ってるんだなっていうことで、自ら動いてくれる方もいらっしゃると思うので、本当にこのような形でまとめたのは大きな成果だと思っています。 先ほどモニタリングの話もありましたが、うまく使いこなして少しでも地域の皆さんの暮らしにもこの湘南大庭ならではの暮らしが続いていってくれたらいいなと思っております。 この会議に参加して、微力ながらという形だったんですけども、一緒にメンバーとして活動できたことを本当に嬉しく思っております。ありがとうございました。
道上委員	活性化協議会を発足したとき、一体何をやるのかもよくわからないまま、これからのまちづくりを考えるなら参加したいというメンバーだった

	たと思います。 その中で、その指針を作るということが自分たちだけの意見というのではなく、様々なアンケート、様々な街の方たちの声を集約してそれを取りまとめるのが私達の仕事というか、そういう思いで活動してきました。 ただ、3年、5年と経つと、最初のメンバーからメンバーが減りまして、今はかなり少数になりましたけど、いろんな方々の力でこういう素晴らしいものになったと思います。 これはスタートライン、と水上さんおっしゃったように、使わなかったら使わないで終わってしまうってことを私達も心配なので、今後は郷土づくり推進会議と連携して、一緒になって、私達の活性化協議会は3月で1回終止符を打つとは思いますが、郷土づくりに引き継いで一緒になって推進していけたらという思いであります。 本当に関わってくださったみなさん、無理難題をいろいろ聞いてくださった住宅政策課の皆さん、本当にありがとうございました。大変だったけど楽しかったです。
神木委員	副会長と道上さんがおっしゃったことが全てなんですけども、一言言うならば、今回最後の会議に出て思うのは、このイラストにしても、以前僕らが言ったことを反映していただいて、非常に良いイラストができてよかったなと思いました。 さっきも言いましたように、現在から未来へってというようなイメージで描いていただいて非常に苦労していただいたなと思います。これに礼を言いたいのと、あと12月にあるまちづくりトーク、今までもいろんなご意見がありましたけども、できるだけ友人、知人を読んで、やっぱりこれからのもっと未来へ向かってってというようなことで人集めもしたいなと思いました。ありがとうございました。
中村委員	活性化協議会のお話をしますと、最初を16人くらいいたんですけどもだんだん諸事情によって少なくなってきました。 少なくなってくると、何となく和やかな雰囲気になって、意見が言いやすくなって、道上さんのリーダーシップで参加するなら楽しくなきゃ、面白くなきゃつまらんという雰囲気になりました。そういった意味では後半本当に良かったのかなと思います。 おかげで活性化協議会の意見も尊重されていますし、反映されています。これからですね、これから我々が地域の若者や高齢者とういうふうに向き合っていくかということが大事です。 住民のモチベーションを高めながら、いろんな方々と共生するという

	意味では、これからこれ課題になってくると思うんで、これを引き続き伸ばしていければと思っています。 ありがとうございました。
大塚委員	今年からの参加ということで出席回数としては少ないですが、活性化協議会の委員の皆さまと一緒に、今後郷土づくり推進会議でしっかりとどのような運営ができるか考えていきたいと思います。 モニタリングという話もありましたが、この指針を未来に向かってどう活用していくのかということは、前回の議論の中でも、皆様が強い思いで臨んでいらっしゃる事が伝わってきましたので、その思いをどう形にしていくかということをセンターとしても考えていきたいと思います。 本当にありがとうございました。
武内委員	今年の4月からこの会議に関わるようになり、内容としてはほぼ固まっている中でも、指針がどのように出来上がっていくのかという過程を見ることができたこと、また、それが非常に活発な議論の元に成されていったことが素晴らしいことだと思いました。 指針の内容を見ても取組方針がわかりやすくまとめられており、これからのまちづくりの発展に大きな期待が持てるものと感じています。 ただ、この取組方針に基づいて、だれがどのように行動し実現していくのかという点が非常に重要な要素だと思いますので、この点は、パートナーの一部となる行政として貢献していきたいと考えています。 ありがとうございました。
加藤委員	住宅政策課の加藤でございます。 私は2年間この未来を考える会議に参加させていただきました。 最初、この場に座ったときに、皆様のいろいろな思いをどうやって集約していったらいいんだろうと本当に悩みました。 ただ今日この最終回を迎えるにあたって、この皆様の熱い思いが一緒になって、行政も含めて、ここに集約できたことをすごく嬉しく思います。 まず、スタート台に立ったというお話もございましたので、引き続き、行政といたしましても地域の皆さんと一緒に、湘南大庭の未来を切り開いていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。 ありがとうございました。
森谷委員	湘南大庭の未来を考える会議に関わらせていただいて非常にありがたいと思っています。 事業者として参加をするということで、他にも事業者の方いろいろ

	らっしゃるのかなと想定していましたが、私 1 人のみだったので、もう少し専門的な観点から発言できればよかったと思っています。 実際、私も生まれてからずっと今まで湘南ライフタウンで生活をしてきて、今現在も仕事をしていまして、住民の方の入居や新規開業などに関わっております。 こういったことも含めて引き続き湘南ライフタウンのまちづくりに関わっていければうれしいです。 湘南ライフタウンにかける思いは人一倍強い方と思います。 今後ともよろしくお願いいたします。
水上委員	この話をお聞きしたときに、自分が仕事でやってきたこととか、今別の団地でやってることとかの経験が何か生かせればという思いだけで参加をさせていただきました。 最後の最後までモニタリングがどうか、手続きやプロセスこだわって発言してきたのは、これを作ったから何かが急に変わるわけではなくて、これを作るにあたって積み重ねてきた議論の内容などのプロセスが非常に大事になっていくからです。 コストもかけてるし、思いも注ぎ込んで、ということもあって、特に事務局の皆さんに耳障りなことをいろいろ申し上げたかと思いますがお許しいただければと思います。 あとは、他の団地でやってきたことで言うならば、徹底的な対話を繰り返すことが必要だと思います。 これから関わる方も増えてきますが、目指すこととか価値観もみんな違うはずだけれども、必ず一致点を見出して対話をとにかく繰り返すというのが私が今までやってきたことです。 これは絶対正しいやり方だと僕は思ってるので、それを確信した上でお話をさせていただきました。 本当に、特に市民の皆さんには、ここまで粘り強く、そしてパッションをもって臨まれていたことと思います。 私の知らない様々な活動もされて来たと思うと、心から敬意を表したいと思います。 ありがとうございました。
杉渕アドバイザー	アドバイザーとして参加させていただいておりました杉渕です。 この 3 年間皆さんの議論の結果が結実したということで、非常に良いものができたと考えております。 二つほどご紹介をさせていただきたいんですが、最近読んだ本で、持続可能な交通まちづくりという本があります。

	これ宇都宮清彦さんという人が書いた本なんですけども、その中の最後に、交通の話をしてるんですけども、地域とか、市がどういうふうなビジョンを描いてるかっていうことから交通のことを考えなきゃいけないというようなお話をしまして、夢とビジョンを持ってまちづくりをしようということをお話されています。 それが一つ将来のまちづくりのために非常に大事なんではないかなと思います。 市民の事業者の方も、それから行政の方も、あるいは地元の人も、それからここに関心がある様々な人たちも、みんながこうあったらいいなという夢とか、そういうものを語ってまちづくりの将来を論じていく。論じていくというか、描いていく。こういうことが、この本の最後に書かれています。 今回まさに皆さんがやられたことはこのことを実践してるのではないかなと感じています。 それと今回の取り組みは藤沢市では市民参加の方法としては初めての試みだと思います。 行政としてもこの経験値は極めて重要だし、今後のまちづくりに生かせるのではないかなと思っています。 このまちを、この地域をどうしていくのかというビジョンを描き、市民を中心とした議論を積み重ねてきたというプロセスを踏まえて、これをどのように実現していくかということが、住民の方、事業者の方、行政に問われているものだと思いますし、これをパートナーシップで乗り越えていただきたいと思います。 どうもありがとうございました。
佐野会長	私もこの会議の会長に就くときに、いわゆるまちづくりの委員会というのは、行政が作ったものを土台にしてなんとなく意見を交換して、合意に至るような印象を持っていましたが、今回の場合は、ヨーロッパのまちづくりで行われているような住民が参画して作り上げてきたことを評価したいと思います。 政策主導というよりは、住宅政策課が中心となって、いかに住民の暮らしの質を高めて暮らしやすくするか、ということが念頭にあった行政対応だった印象があります。 今回、こういう形で、3者がパートナーシップの元に進めてきた会議において策定した指針というのは、アットホームな手に取りやすいものになったと思いますので、今後の活用に期待しています。 かつては、市の職員が土台をつくって、各地区をまわって説明してき

	たという経緯から考えると、市民みんなでまちづくりを考えて進めていく時代になったんだと感慨深いものがあります。 皆様におかれましても、これまで貴重なお時間をいただきながら、ご尽力いただきました。 本当にありがとうございました。
會澤課長 補佐	ありがとうございました。 最後に事務局からいくつかご報告、ご案内になりますが、今回ひと区切りというところで、この先は新たなスタートに向けて、市長への提言というものがあります。 また、その後に完成報告会というものがございます。 この2つにつきましては、改めて住宅政策課から、または市民センターを通じて、委員の皆様にご連絡させていただきます。 委員の皆様からもこの2点について何かあれば住宅政策課にご連絡いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。 日程等については、年内に確定し、お知らせさせていただきます。 もう一点、指針と概要版につきましては、今のところ来年1月中旬ぐらいの完成を予定しています。 完成次第、委員の皆様の方には一部ずつご用意をさせていただければと思っております。 ご郵送をさせていただければと思っておりますが、活性化協議会の委員の皆様におかれましては、センターを通じてお渡しする形になるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。 事務局からのその他のご報告としては以上となります。
佐野会長	指針がこのように完成を迎えることができ、私もほっとしております。 これからは、指針をもとに私も一市民として活動し、一步を踏み出していきたいと思っております。 それでは、進行を事務局にお返しします。
會澤課長 補佐	会長ありがとうございました。 皆様におかれましても3年半という長期間にわたりまして、ご検討ご議論等いただきまして誠にありがとうございました。 大変お疲れ様でございました。 以上をもちまして令和6年度第3回湘南大庭の未来を考える会議を閉会させていただきます。